

研修目的

将来の専門分野にかかわらず、日常診療で頻繁に遭遇する精神疾患や精神症状に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアに必要な基本的診察能力（態度・技能・知識）を身につけるとともに、医師としての人格を涵養する。積極的に行動して奉仕の心を育むとともに、常に疑問を持って多くの人に問いかけ、素直な気持ちで振り返りながら次へとつなげていく姿勢を養う。

習得できるアウトカム（能力）

1) 必ず習得できるアウトカム（能力）

※習得することで診療科の研修を修了できる。

習得できていないと評価を受けた場合は研修期間が延長となる。

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

- ・ 基本的な精神症状をプライマリ・ケアの段階で見落とさずに捉える技術を習得する。
- ・ 代表的な精神疾患について正確に診断し、初期治療を導入する能力を身につける。
- ・ 単純な病状に対しては、代表的な治療法を適切に選択・実施できる。
- ・ 治療を専門医に依頼すべきかどうか、すべき場合はその時期を判断する力を養い、複雑または重篤な精神疾患に関しては、初期段階から専門医に適切に紹介できる能力を身につける。

B. 資質・能力

- ・ 抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬、睡眠薬等、向精神薬の適切な使用法を習得し、安全かつ効果的な薬物療法を実践する。
- ・ 統合失調症、うつ病や双極症をはじめとする気分症の治療に対する理解を深める。
- ・ 認知症とせん妄を正確に鑑別し、病態に応じた適切な治療を行う。
- ・ 頭部 CT および MRI 画像を正確に読影し、精神疾患の鑑別や除外診断に活用する。
- ・ 心理検査および認知機能検査の目的と意義を理解し、臨床に応用する。
- ・ 作業療法および理学療法の役割を理解し、チーム医療の中での連携を意識する。
- ・ 精神保健福祉法を学び、非自発的入院を含む法的枠組みとその実態を理解する。

C. 基本的診療業務

- ・ 外来において、初診患者の予診実施する。
- ・ 病棟において、担当患者の回診および必要な検査を自ら実施する。
- ・ チームの一員として、カンファレンスに参加し、積極的に発言する。

2) 研修医の意向により習得できるアウトカム（能力）

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

- ・ 共感：精神医療に限らず、患者の訴えに耳を傾け、患者を深く理解しようとする姿勢は医療の大原則である。共感とは、それ自体が患者の苦痛を和らげる効果を持つ。患者を理解するだけでなく、患者の同意のもと、家族を含めた関係者に対しても、病状や対応策、予後の見通しについて適切かつ丁寧に説明できる能力を習得する。
- ・ コミュニケーション能力：医療人として最も重要な資質のひとつは、優れたコミュニケーション能力である。医師は多職種と連携して医療を提供するため、リーダーシップと協調性の両方が求められる。また、患者・家族との信頼関係のもとに診療が行われなければ、良好な予後は期待できない。こうした背景を理解したうえで、自ら積極的にコミュニケーション能力を磨くことが求められる。具体的には、報告・連絡・相談を適切に行い、挨拶や日常的な対話を大切にすること、異なる意見にも耳を傾ける姿勢を持つことが重要である。その根底には、他者を尊重する気持ちがあり、相手を傷つけることなく、常に謙虚な態度を保つ努力が求められる。

B. 資質・能力

・ エビデンスに基づいた医療：医学的エビデンスを根拠に医療を実践する姿勢を身につける。そのためには、常に最新の医療データや研究成果にアクセスし、自ら調査・検討する習慣が求められる。単に結果を追い求めるのではなく、診療のプロセスを重視し、患者一人ひとりの状況に応じた柔軟な対応力を養うことが重要である。エビデンスに加え、現場での実際の状況を踏まえた広い視野と判断力を持つことが求められる。その結果として、情報開示にも耐えうる透明性の高い医療を提供する覚悟と責任を持つことが必要である。

- ・ 脳画像や分子生物学的知見に基づいて精神症状を理解する力を養う。
- ・ うつ病教室や回想法などの集団精神療法の意義と実践方法を学ぶ。
- ・ 子どもとその保護者を対象とした精神医学的支援の基本を学ぶ。

C. 基本的診療業務

- ・ 病棟で実施されているうつ病教室や回想法のプログラムに参加する。
- ・ 脳画像（担当：中川）および分子生物学（担当：丹生谷・毛塚）に関する講義を受講する。
- ・ 「親子のこころ外来」に陪席し、初診予診を担当する（担当：福地）。

具体的な指導方法・フィードバック方法（研修方略）

- ・ 毎朝 8：50 に開始する、病棟申し送りに出席する。必要に応じて、病棟担当医から指導を受ける。
- ・ 外来初診患者の予診を行い、その日の新患担当医に申し送る。さらに、その後の診察に陪席をする。
- ・ 病棟において、指導医あるいは指導教員と担当患者の回診を行う。
- ・ 毎週月曜日の 13 時より行われる症例カンファレンス、14 時より行われる病棟カンファレンスと回診、16 時より行われる科内研修会・症例検討会等に参加する。
- ・ 毎週火曜日 11 時からの児童カンファレンスと回診に出席し、議論に参加する。

週間予定表 別紙参照

指導責任者および指導医

指導責任者：	中川 誠秀	(精神科専門医制度指導医)
指導医：	山田 和男 (保健管理センター)	(精神科専門医制度指導医)
指導医：	丹生谷 正史	(精神科専門医制度指導医)
指導医：	福地 成	(精神科専門医制度指導医)
指導教員：	毛塚 大	
指導教員：	桐生 幸歩	
指導教員：	中村 怜	

学会発表・論文作成に対する指導体制

研修期間の最終月曜日の症例検討会において、経験症例のレポート発表を行う。
学術集会における演題発表の希望があれば全面的に支援する。

月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
8:50 朝のカンファレンス	8:50 朝のカンファレンス	8:50 朝のカンファレンス	8:50 朝のカンファレンス	8:50 朝のカンファレンス
9:00 外来・桐生 外来診察の陪席 新患診察の補助	9:00 外来・中川 外来診察の陪席 新患診察の補助	9:00 外来・福地 外来診察の陪席 新患診察の補助	9:00 病棟業務	9:00 外来・福地/毛塚 外来診察の陪席 新患診察の補助
12:00	12:00	12:00	12:00	12:00
13:00 症例 カンファレンス	13:30 病棟業務 コンサルト回診	13:30 病棟業務 コンサルト回診	13:30 集団精神療法 (うつ病教室 回想法など)	13:30 病棟業務 コンサルト回診
14:00 病棟カンファレンス 回診			15:00 病棟業務 コンサルト回診	
16:00 科内研修会 症例検討会				
17:15	17:15	17:15	17:15	17:15